

令和8年度第1回 さいたま市文化財保存活用地域計画運営協議会 議事録

1 日 時 令和8年6月25日(木) 10時00分から11時00分まで

2 会 場 さいたま市役所本庁舎2階 特別会議室

3 出席者名

【委員】

所 属 等	分 野	氏 名	役職
公益社団法人さいたま観光国際協会 事務局長	観光	大和田 昌宏	
宗教法人浄国寺代表役員	文化財所有者	川端 信行	
さいたま商工会議所 街づくり・観光委員会 副委員長 岩槻支部 支部長	商工	小宮 康一郎	
芝浦工業大学 システム理工学部教授	まちづくり	作山 康	会長
市民公募	公募委員	花井 紀子	
宗教法人氷川神社権宮司	文化財所有者	東角井 真臣	
芝浦工業大学名誉教授	建造物	渡辺 洋子	副会長

【事務局】

所 属 名	職 名	氏 名
生涯学習部	部長	深津 健太郎
文化財保護課	課長	金子 洋幸
文化財保護課 文化財保護係	課長補佐兼係長	磨田 顕寛
文化財保護課 史跡整備係	課長補佐兼係長	井上 拓巳
文化財保護課 文化財保護係	主査	栗原 達郎
文化財保護課 文化財保護係	主査	原田 信弘
文化財保護課 文化財保護係	主任	石田 留美子

4 欠席者名

【委員】

所 属 等	分 野	氏 名
市民公募	公募委員	木本 和男
淑徳大学人文学部兼任講師・元さいたま市職員	地方史研究家	野尻 靖
大東文化大学 文学部 歴史文化学科 教授	歴史・観光歴史学	宮瀧 交二

5 協 議

- (ア) 文化財保存活用地域計画の進捗状況について
- (イ) その他

6 公開・非公開の別 公開

7 傍聴人の数 0人

8 協議内容 下記のとおり

記

- (ア) 文化財保存活用地域計画の進捗状況について

・文化財保存活用地域計画の進捗状況について、資料1のとおり事務局より説明した。

・事務局に対し以下のような意見等があった。

(渡辺副会長)

水塚について、言及している水塚には建造物があるのか。

(事務局)

建造物があると思われる。まずは把握調査をする予定である。

(作山会長)

春日部にも水塚がたくさんあったようだ。荒川沿いに残っていることが興味深い。基礎調査を進めて欲しい。

(事務局)

スーパー堤防ができた影響で、堤外に水塚が残っている可能性は低いと思われる。過去の居住者へのヒアリングも含めて調査を検討していく。西区、桜区だけでなく、岩槻区も調査を検討する。

(渡辺副会長)

かつて川島町、川越市、志木市にも水塚があった。荒川流域に多いと思われる。

(花井委員)

スーパー堤防等の開発が進むと、本来あったものが失われる。開発のスピードは早いので水塚に限らずいろいろな文化財の調査スピードを上げて進めて欲しい。

(大和田委員)

大宮の山車の調査はどういう内容か。

(事務局)

大宮夏祭りは中心となる五町がそれぞれの山車を持っている。山車の修復は、文化庁から修復に係る費用の補助がでることもあり、近年修復が進んでいる。昨年度は、宮町、吉敷町の山車の修復をした。山車の修復は経費が高額になるので、夏祭りの機会を活かして修復の必要性についても調査する予定である。

(東角井委員)

内容が多岐に渡っているので大変だと思うが、広範囲に広がりすぎている印象がある。さいたま市として「いかす」という面で何を中心とするのか。文化財キャラクターは真福寺貝塚とサクラソウで作成しているが、真福寺貝塚をどのようにアピールしていくのか。サクラソウも株数が減少傾向にあるようだが、サクラソウを増やすことはできないのか。

(事務局)

真福寺貝塚については、発掘調査 100 周年記念事業としてシンポジウムを 11 月に埼玉会館で開催する。市内の認知度は低い全国的には注目度の高い貝塚のため、市外の関心が高くなるだろう。現在も発掘調査を行っているが、今年度で終了する予定である。あわせて 12 月に現地の見学会も予定している。

サクラソウ自生地については、近年の環境の変化で温暖化が進んでいる影響がある。気候変動で地中の乾燥化というのがサクラソウの株数を急激に減少させている原因となっていると思われる。有識者の検討会議があり、専門家の先生方にご意見を聞きながら自生地の乾燥化を防ぐために、灌水実験を実施している。株数については、昨年度は 45 万株、今年度は 38 万株まで減少している。昨年は夏季に雨がまったく降らなかったのも、乾燥化が進んだと思われる。

サクラソウ自生地と真福寺貝塚については、まず多くの方に知っていただきたいと考えている。ぜひ皆様方から効果的な広報の方法があれば教えて頂きたい。

(作山会長)

戸田市は市の花がサクラソウとなっている。戸田市には、江戸時代から有名な戸田ヶ原のサクラソウ自生地がある。戸田市はサクラソウの株数を増やしている。河川事務所の協力を得るのが効果的か。

(花山委員)

錦乃原サクラソウ自生地近隣をウォーキングすることがあるが、保存会の会員が高齢化している。現地に行くと解説をしてくれ、地元ではとても大事にしている。学校や子供たちとも連携している。保存会では高齢化で後を継ぐ人がいないと聞いているので、良い方法があるのではないかと外から思っている。

(作山会長)

戸田地域の河川の堤防は、早朝からウォーキング等の利用者がとても多い。ウォーキング等で堤防を利用するような市民にも広報すると効果的か。サクラソウを公園の中だけでなく、日頃からサクラソウを鑑賞できる機会を増やしてみてもどうか。

(渡辺副会長)

クラウドファンディングは以前と同じ内容か。

(事務局)

以前と同じ内容で今年度も実施する。

(渡辺副会長)

返礼品としてサクラソウの苗を頒布することができるか。

(事務局)

自生地のサクラソウを頒布する際は、国の天然記念物として指定されているため、文化庁との協議が必要である。基本的には自生地 of サクラソウを採取して頒布はできない。指定解除されている錦乃原サクラソウ自生地は4月のイベントでサクラソウを頒布している。

(大和田委員)

田島ヶ原サクラソウ自生地は、天然記念物の指定になっているため様々な縛りがあり、安易に苗を植えることができない。自生地というのが指定の条件だと聞いている。

(渡辺副会長)

では、サクラソウはどのように増えるのか。

(事務局)

基本的には地下茎で増える。

(作山会長)

クラウドファンディングの返礼品には、利用者側の気持ちを考えた施策を考えてはどうか。サクラソウの開花期にピクニックができるようにレジャーシートを返礼品にして、サクラソウ鑑賞を目的とした利用を促すとか、何か楽しみながら保存するような企画を期待する。

(花井委員)

ストーリー性がないと集めるのが難しい。地元という観点だけでなく、関心のある人を広く集めるという方法も検討してはどうか。

(小宮委員)

協議の進行が偏っているように感じる。出席している他の委員にも発言を求める等の進行が必要だと思う。

(川端委員)

サクラソウについては、区役所に植えてもいいかと思ったが、自生地を維持するという視点とは異なるか。真福寺貝塚については、周知の機会を増やしてはと思う。

(作山会長)

真福寺貝塚については、何万年前、かつて大宮台地の外側が海だった。大宮台地という視点を持つと興味がわく。私たちが住んでいる場所は昔から住みやすいところだということがわかる。文化財保存活用地域計画は、まだ手探り状態だと思うが、委員の皆さんに様々な視点で意見をいただけたらと思う。

(イ) その他

- ・その他の事案について、参考資料のとおり事務局より説明した。

(花井委員)

この事業はどういう媒体で周知をしていたのか。

(事務局)

さいたま市報の北区版と各公民館でのチラシ配布、ホームページでの周知を行った。

(花井委員)

北区以外ではやらないのか。

(事務局)

昨年度は試験的に北区で実施した。今年度は本格的に北区と別の区で実施する予定である。

(東角井委員)

参加者 6 人に対して、職員は 1 人か。

(事務局)

参加者 6 人に対して、職員は 3 人で対応した。

(東角井委員)

ワークショップは実施の様子を YouTube で発信するとか、実施後もできることがあると思うので検討いただきたい。大宮駅を中心とした街歩きや史跡巡り等は再生数が伸びやすい動画コンテンツである。

(作山会長)

マイクセットがあれば、ガイドひとりで 10 人から 30 人くらいまで対応することができる。参加人数については、効果的に周知すれば参加者も増えると思うので、実施方法を工夫してみてはどうか。

(花井委員)

大宮郷土史研究会で私も街歩きをやっている。研究会ともお互いに情報を共有して効果的に周知できれば良いと思う。

(作山会長)

良い企画なので、もっと楽しい企画になるよう検討してみてはどうか。

(東角井委員)

観光国際課と連携して、さいたま小町と連携するとか、お互いの専門分野を活かして活動したら良いと思う。

(作山会長)

庁内でも連携して進めていただければ良いと思う。本日は以上とする。進行を事務局にお返しする。

以上で議事を終了した。